

一、並	貳貫百拾八文	内	五拾五文	藏敷
一、並	拾貫六百拾六文	内	右同断	同
一、步	参貫六百貳拾文	内	右同断	同
逆瀬川迄				
一、本	馬		六百六拾文	
一、輕	尻		四百四拾文	
一、步	持		三百三拾六文	
壳	荷			
一、並	壹貫五百六拾文	内	百五拾五文	藏敷
一、並	壹貫九百三拾貳文	内	右同断	同
一、步	持	内	右同断	同
一、牛	口		貳百文	

背負並荷 六拾四文

右之通改而被仰出候ニ付御承知可被成候事

明治三庚午五月

問 屋

(右に同じく荒井家所藏)

5、村の発達 下荒井に城廓の築かれたのは元徳元年(一三二九)とあるが、村の起源はそれよりもさかのぼると思われる。旧蓮華寺跡の東から、旧追手通りの現在白山へ向う街道が、輕井沢銀山街道より古いことは確か